

ソフトウェア概論 A/B

-- 再起 again --

数学科 栗野 俊一 / 渡辺 俊一

2016/07/01 ソフトウェア概

伝言

私語は慎むように !!

- 出席パスワード : 20160701
- 色々なお知らせについて
 - 栗野の Web Page に注意する事
<http://edu-gw2.math.cst.nihon-u.ac.jp/~kurino>
- 廊下側の一行は遅刻者専用です(早く来た人は座らない)
- 講義開始前に済ませておく事
 - PC の電源を入れておく
 - ネットワークに接続しておく
 - 今日の資料に目を通しておく
- 講義前の注意
 - 講義前は、栗野は準備で忙しいので TA を捕まえてください
- やる気のある方へ
 - 今日の資料は、すでに上っています
 - ▶ どんどん、先に進んでかまいません

前回(2016/06/24)の復習

□ 前回(2016/06/24)の内容

○ 2 周目の開始

▶ 1 周目の内容を再確認や謎解きをしながら、新しい事を説明する

○ 「Hello, World」again : 様々な謎解き(一部)

▶ 「main 関数」の定義

▶ 「#include」の意味 : ファイルを読み込む (printf の extern 宣言)

▶ 「int ~ return 0;」: 「void」との関係

○ 関数と制御構造

▶ 順接 : 命令を並べると、並べた順に命令を実行を行う

▶ 関数 : 命令列に名前を付ける事ができる

▶ 関数の引数 : 関数の命令列に「変数」を含める事ができる

▶ 条件分岐 : if 文により、命令列を選択できる

前回 (2016/06/24) の課題

□ 前回 (2016/06/24) の課題

○ 課題 PPNAME-01: (前々回[PPDATE]の課題 01)

▶ ファイル名 : PPNAME-01-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)

▶ 内容 : 「Hello, 自分の名前」を表示するプログラム (二度目)

○ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 課題 20160624-01:

▶ ファイル名 : 20160624-01-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)

▶ 内容 : 二つの整数の積を返す関数

▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 前回の課題 : 20160624-02, 20160624-03 は今週に回す

本日 (2016/07/01) の課題

□ 本日 (2016/07/01) の課題

○ 課題 20160624-02: (前回[2016/06/24] の課題 02)

- ▶ ファイル名 : 20160624-02-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 自然数の階乗を返す関数
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 課題 20160624-03: (前回[2016/06/24] の課題 03)

- ▶ ファイル名 : 20160624-03-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 二つの非負の整数の最大公約数を返す(ユークリッドの互除法)
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 課題 20160701-01:

- ▶ ファイル名 : 20160701-01-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 数当てをするプログラム
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

○ 課題 20160701-02:

- ▶ ファイル名 : 20160701-02-QQQQ.c (QQQQ は学生番号)
- ▶ 内容 : 与えられた整数の素因数を表示するプログラム
- ▶ ファイル形式 : テキストファイル(C 言語プログラムファイル)

条件分岐(再)

□ 条件分岐

- 条件によって、「異なる二つの振舞の一方を実行(分岐)」する事

□ if 構文

- 条件分岐を記述する「構文(記述形式)」の一つ

- ▶ 構文 : 「if (条件) { 命令1 } else { 命令2 }」

- ▶ 意味 : 「条件」が成立すれば、「命令1」が、そうでない時には、「命令2」が実行される

- 「単独」の if 構文は、「二択」だが、「if 構文」の組み合わせで「多択」が可能

□ if 構文の亜種

- **else** 節の省略

- ▶ 「if(条件) { 命令 } else {}」の「else{}」は省略可能

- **else if** 句 : 次の二つは同じ意味

- ▶ 「if (条件1) { 命令1 } else {if (条件2) { 命令2 } else {命令3}}」

- ▶ 「if (条件1) { 命令1 } else if (条件2) { 命令2 } else {命令3}」

再帰呼出し(再)

□ 再帰呼出し

- ある関数の本体に、その関数の呼出しが含まれている事

- ▶ 「その関数の一度の呼出し」で「その関数の呼出しが」が何度も呼び出される可能性が生じる

- 注意：安易に「再帰呼出し」を記述すると、「無限ループ」になる

- ▶ 「再帰呼出しを終了させる」仕組みを「意図的に導入」する必要がある

- ▶ 「条件分岐」が必須

- 再帰句：P は、停止条件、A は繰り返す命令、X' は X から計算され、いつか P(X) が成立する

- ▶ 記述形式：`f(X) { if (P(X)) {} else { A(X); f(X'); }`

- ▶ 意味：f(X) を呼ぶと、P(X'..') が成立するまで A(X) を繰り返す

- ▶ ポイント：「A(X) を繰り返す」ために「f() を再帰で定義」する

□ 再帰関数

- 再帰呼出しを行う形で定義された関数

□ 繰り返し：同じ命令(記述)を何度も呼び出す仕組み

- 再帰呼出しを利用する事により、「繰り返し」が実現できる

- 再帰関数は、「何らかの繰り返し」を実現している

インプット・ループ：入力による繰り返し

□ 一般的な再帰関数

- 引数の値によって、挙動(繰り返し回数)が変化する

- ▶ 引数が確定すれば、繰り返し回数も確定する

□ インプット・ループ

- 入力(インプット)の値によって繰り返し回数を制御したい

- ▶ 典型的な応用: 「終わり」まで「繰り返す」

□ インプット・ループを作るパターン

- 入力関数を引数とする再帰関数を作ればよい

- インプット・ループ句

- ▶ 記述形式: `f(X) { if (P(X)) {} else { A(X); f(input()); } }`

- ▶ 意味: 入力 X が P を満たすまで A(X) を繰り返す

- ▶ ポイント: f を最初に呼び出す場合も f(input()) の形にする

乱数

□「乱数列」とは

○定義： $\{r_n\} (n = 1, 2, \dots)$ が「乱数列」であるとは

▷ r_{i+1} が、それ迄に与えられた r_1, r_2, \dots, r_i から予想できない数列になっている場合

▷ cf. (不正のない)サイコロを(無作意に)投げて、出た目を並べた数列は「乱数列」になる

▷ cf. n 番目の数 r_n を n から求める「規則(例えば $r_n = n^2$)」がある場合は乱数でない

○[注意]「予想できない」を「数学的に表現する」のは難しい(西川先生を困らせてみよう)

▷ 現実的には「予想をしない(数学の立場)」か「乱数のようにみえる数列(疑似乱数: 計算機の立場)」を取る

□「乱数」とは

○「乱数列 $\{r_n\}$ 」の i 番目の要素 r_i を取った物の事(なので、その値を事前に予想できない)

「乱数の分布」と「疑似乱数」

□「乱数」の分布

- 「自然現象に現れる乱数: $\{r_n\}$ 」は、「個々の要素(r_i)の振舞」は解らない
 - ▶「集合としての振舞(の一部)」である「分布」は解っている(仮定してもよい..)事が多い
- 一様分布： r_i はある範囲の数で、どれかが現れる確率がどれも同じ
 - ▶cf. さいころの出目は、 $\{1 \sim 6\}$ で、どれも等確率(1/6)
- 正規分布： $\{r_i\}$ の分布は、正規分布 $N(\mu, \sigma^2)$ に従う
 - ▶cf. 自然現象における雑音等

□乱数の応用

- 個々の現象が「起きる規則が知られていない/予想できない」場合に「乱数」として扱う
 - ▶ただし、予め「対象となる現象」の分布(統計を用いる)を調べる
 - ▶その乱数が、その分布に従うと「仮定」する

□「疑似乱数列」とは

- 「乱数列」のように*見える*ように「規則的に作成された」数列